

～2005年1月 茨木西中時代の陸上部通信より～

**夢見る頃を過ぎても・・・!?今一度初心に帰って陸上  
をやっていききたい。夢に向かって輝いていた瞳があったからこそ、ここまで  
やってこられたのだと思う。きっと、陸上の神様はいるのだと信じたい。**

あの時は途方もなくでかい夢だったのかもしれない。初めて陸上競技部の顧問になったのが、今から13年前。(それまでの7年間はバスケット部の顧問をしていたのだ。) 念願の陸上競技部顧問になれたのは良かったが、中学校の陸上の組織ややり方がまったくわからない。まして、自分は陸上競技といっても長距離しかわからない。今まで一律に練習することしか知らなかったので、走ったり跳んだり投げたり「いったいぜんたいどうすりゃいいの?」と途方にくれた。12年前に西中学校に転勤。茨木西中陸上部OBで、前茨木西中顧問でもあるI先生(現茨木南中陸上部顧問)にいろいろアドバイスをもらいながらも、とりあえず毎日が必死であった。(あの時娘が小さなこともあって、保育所の迎えがあったりして大変であった。) 当時はリレーチームが大阪大会の決勝に残るというのは考えられなかったし、ましてや自分が教えている選手が全国や近畿大会にいくなると夢のまた夢であったように思う。トラック種目はほとんど予選落ちで昼からはほとんど見る種目がない時もあったくせに、監察審判は最後のファイナル種目のリレーの決勝まで残って審判しなければならない。優勝して全国大会出場を決めた学校の選手が抱き合って喜ぶ姿に感動しながらも、やはり遠い雲の上のような出来事であったように思う。あの頃、夢はまだ漠然としていたのだ。

「リレーで大阪大会の決勝に残れたらいいな。」という言葉がやがて「決勝に残りたい。」「決勝に残れるはずだ。」「近畿や全国にも行けるはずだ。」という具合に変わっていったきっかけは、あの時真剣に「強くなりたい」と瞳で訴えていた部員の顔つきだったのだと思う。先生が転勤してきた時に一緒に西中に入学してきた1年生だった。今から思えば何にも知らない先生を良く信じてついてきてくれたものだと感心さえする。その子達が3年生になった時初めて大阪大会(通信大会)で3位。しかしながら、肝心の選手権では惜しくも4位になり、わずかの差で近畿をのがした時の悔しさは今も忘れない。もちろんゴールして泣き崩れたりリレーメンバー達の涙やその光景は今でも目に焼き付いているし、それが今の先生なりのモチベーションの原点というか原風景となっているのだと思う。しか

し、この時に初めて個人種目2つで近畿大会出場（この年から現在まで、9年連続近畿大会出場となっている。）、秋には初めてジュニアオリンピックに選手が出場し、東京国立競技場のでかさにびっくりしたのもきのうのように思えてくる。

先生が子供の頃、昭和30年代後半から昭和40年代前半にかけて、まだあちこちに原っぱがあって、そうそう…のび太やスネ夫やジャイアンが話し込んでいそうなかいドラム管がみつつくらいあって、いつも陽が暮れるまで草野球をやっていたものです。（よく近所のガラスを割って…。やっぱりかみなりおじさんは実在した。）あの時のヒーローは長嶋や王であって、プロ野球選手になるのが夢だった。「子供が夢をたくさん持つこと」これは、子供の特権です。今思えば、あの頃がたまらなく懐かしい。キラキラと輝く少年時代の思い出は誰にもあり、やがて「夢見る頃」が過ぎて、「生意気さを意地でつかえ棒していた時代」を駆け抜け、就職が決まって髪を切る……。世のおじさんが通るおきまりのパターンです。今、先生は44歳。立派なおじさんで「夢みる頃」をはるかに過ぎています。それでも陸上競技で「夢」を追い続けることができる。自分が陸上競技に出会えたことにまず感謝したい。そして、常に「夢」を無限大に進化させてくれた歴代の「西中学校陸上競技部」の部員たちに、心から感謝したい。そして、今一度原点にかえて陸上競技と向き合いたいと思っている。これからも陸上の神様よろしくをお願いします。

前の学校の話で恐縮ですが…。2003年は大阪総合優勝、そして混成競技で悲願の日本一を果たし、03年、04年に女子リレーと男子駅伝が大阪で連覇して全国大会に大阪府代表として出場、都道府県対抗駅伝にも2年連続でのべ3人の選手を代表に送りこむなど、ある意味、茨木西の絶頂期ともいえた時代がありました。続く05年はリレー、駅伝の史上初の3連覇を狙う年でしたが、正直言ってこのときの3年生は戦力的にも見劣りする陣容でした。それでも、冬季練習のときから、ひとりひとりがそのプレッシャーに負けることもなく、いつも前向きにがんばって練習する雰囲気がありました。自分たちの夢に対していつも正直で、純粹にがんばる選手たち。そんな当時の選手たちがとても大好きでした。「チームにスーパースターがいると、頼り切ってしまうあまり心にすきが生まれる。いなければ、ひとりひとりの自覚が生まれるのでチームが自立できるのだな。」と、そのとき感じたりしました。そういう意味で、今年のチームに期待しています。また、実際にそのような手ごたえを感じる場面もあります。東雲の09年のシーズンも、たくさんのドラマが生まれ、感動でいっぱいシーズンになりますように。

